

記念誌発刊に寄せて

京都で1997年に行なわれた日本生薬学会は、学会創立50周年を記念するものであり、そのために幾つかの企画が立案されたが、その中に記念誌の発行もある。時の会長藤多哲朗教授、記念事業会会長上田博之教授、実行委員長本多義昭教授のもとに、学会当日は盛大に幾つかの行事が催されたが、記念誌の発行も当時企画の中に組み込まれ、学会当日に何らかの形で提供する予定であったと記憶している。しかし、一時は発刊が危ぶまれたり、その他諸種の事情で間に合わなくなったので、たまたま1998年度の会長をお引き受けした際に、他の企画と組み合わせて推進することにしたわけである。

企画の第1は50周年記念誌の作成（委員長：上田博之）、第2は薬用植物データベースの作成（委員長：木村孟淳）、第3は会員名簿の発行（委員長：奥山徹）である。これらは、従来時折議題に上りながらも順送りになっていたものであるが、何時までたってもそのままで進行をみないので、思いきって当該年度の優先事業として取り上げ、推進に踏み切ったものである。残念ながら、これら推進事業も資料の収集等に手間取り、そう一朝一夕に完成とはゆかず、次年度に持ち越されることになった。しかし、委員の先生方のご協力のもとに、会員名簿は1999年8月に刊行され、50周年記念誌はようやくここに発刊されることになった。薬用植物データベースは大学、官公立、製薬企業の薬用植物園に栽培される植物について情報収集に努力しており、機関紙「生薬」、「薬用植物と生薬」、「生薬学雑誌」、「Natural Medicines」を通した50年間の掲載論文のデータベースとともに完成に近づきつつあると聞いている。

言うまでもなく、記念誌は長い学会の歴史を克明に刻んだものであり、過去を参照するに当たっては格好の資料となる。さらに薬用植物のデータベースや掲載論文のデータベースは活用できれば非常に便利なものになり、会員名簿は当然その時々 の現況に合わせて存在すべきものであると思われる。それぞれに立派な完成品となり、会員に役立てていただくことを期待する。

歴代の幹事の先生方も、短期間の任期であるので継続して事を成すにはかなり難しいところもある。荻原現会長、現幹事の永井、奥山、竹谷の諸先生には、鋭意事に当たっていただけるので感謝している。

とにかく、記念誌も漸く陽の目を見るわけで、ご多忙の中終始ご尽力いただいた上田委員長をはじめ委員の先生方に深謝の意を表したい。

平成10年度(1998年度)会長

糸 川 秀 治